

2-2. 生物多様性保全の見える化の基本的な考え方

18

2-2. 生物多様性保全の見える化の基本的な考え方

(1) 生物多様性保全の見える化の考え方

- 生物多様性保全の見える化の対象品目は、水田が、生物多様性に重要な役割を果たしていること、保全の取組と効果に一定の知見があること、国内農地面積に占める割合が高いことから、まずはコメとします。
- 生物多様性については、温室効果ガスと異なり、汎用的に定量評価する手法が確立されていないことから、保全のための取組の実施数を基本として評価することとし、温室効果ガス削減貢献の見える化の追加的指標として、温室効果ガス削減貢献と合わせて表示することとします。

- 以下のことから、まずはコメを対象とする。
 - ① 水田が生物多様性に重要な役割を果たしていること
 - ② 水田における生物多様性保全の取組と効果に一定の知見があること
 - ③ 国内農地面積に占める水田の割合が高く、全国で取り組みやすいこと
- 環境保全型農業直接支払い交付金の取組を基本に取組数に応じて評価。
- 今後、「見える化」の協力農家を対象に、生物多様性の保全効果の検証・調査を実施。
- 温室効果ガス削減貢献の見える化の追加的指標として、温室効果ガス削減貢献と合わせて表示。

水田における生物多様性保全の取組一覧

化学農薬・化学肥料の低減・不使用
冬期湛水
中干し延期または中止
江の設置等
魚類の保護
畦畔管理

19

(2) 見える化の流れ

- 生物多様性の保全のためには、実施地域における生物の生息状況や環境条件等を考慮し、適切な手法を検討することが必要となります。
- 取組実施についての確実性や信頼性の確保等のため、実施時期等を生産記録簿等により確認できるようにします。

生産現場における見える化の実施の流れ

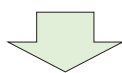
【生物多様性の保全手法の検討】

- 生物の生息状況や環境条件等の地域の特性を考慮して、生物多様性保全のために取り組む手法を検討



【生物多様性保全の実施・記録】

- 評価対象取組毎に定められた取組内容を確認の上、取組を適切に実施
- 取組実績を生産記録簿等へ記録



【取組の見える化】

- 取組数に応じた等級のついたラベルを表示

【推奨事項】

生きもの調査等により、生物の生息状況や取組の効果の確認を行うことが望ましい。



2-3. 等級ラベル表示

2-3. 等級ラベル表示

(1) ラベル表示

- 本ガイドでは、農産物の環境負荷低減の「見える化」の手法として、その取組の程度を消費者に伝えるため、製品包装や店頭のPOP等での商品説明などへ表示するものとしています。
- 農産物の環境負荷低減の評価では、工業製品のような厳密な算定は困難であること、日々購入するものであり、消費者への説明の容易さや視認性の高さが重要であること等から、3段階の等級表示としています。
- 等級ラベル表示は、任意の取組とし、厳密な製品間比較のためではなく、温室効果ガス削減や生物多様性保全の努力を行った製品を消費者が選択できる環境づくりの一環として用います。

■農産物の環境負荷低減を示すラベル

- ▶等級表示★3つで表示することとする
- ▶小数点表記なしの3段階表示

温室効果ガス削減への貢献ラベル



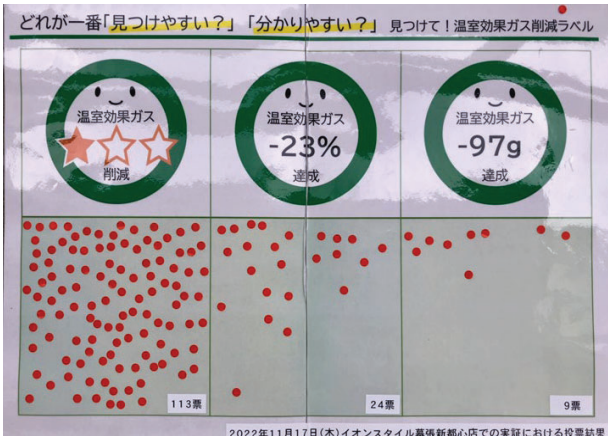
温室効果ガス削減への貢献＋生物多様性保全ラベル



- ・等級表示の★は、1つでも高く評価されるものである。
- ・温室効果ガス削減と生物多様性保全はいずれも重要な取組であり、等級に優劣はない。また、両者は評価軸が異なり、その等級の数を合計して評価することは適当ではない。

(参考)「見える化」の表示方法と消費者の認知

令和4(2022)年度に実施したアンケート調査で、削減への貢献率、量を示すよりも、等級で示すことが最も「見つけやすい」「分かりやすい」との結果が得られた。



※ 上記の商標は商標出願中です。

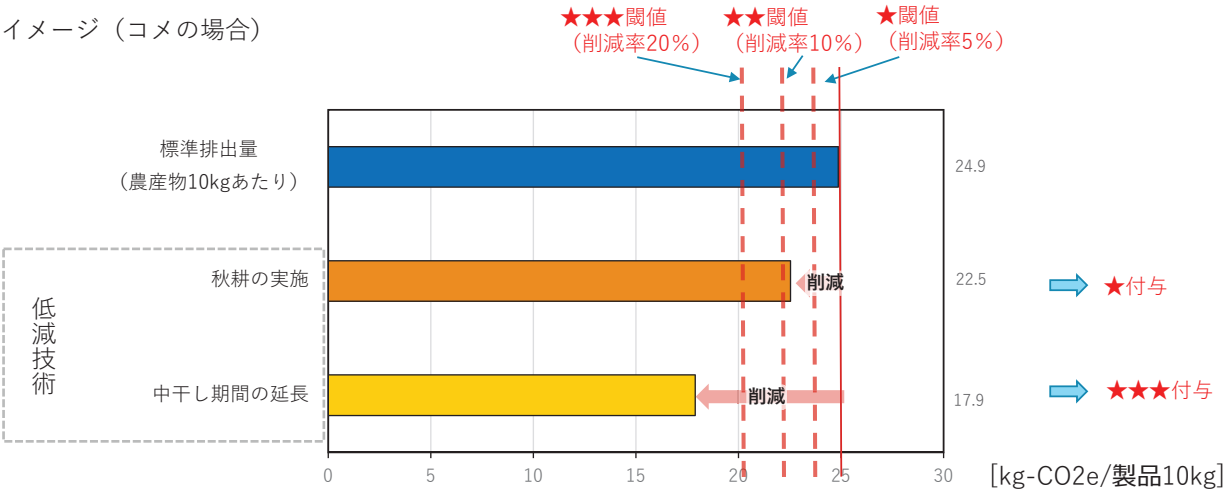
2-3. 等級ラベル表示

(2) ラベル表示 (等級の確定方法 ～温室効果ガス削減～)

- 生産者の削減努力を反映するため、品目ごとに生産者が個別に算定した温室効果ガス排出量と標準値（標準的な栽培方法を想定した場合の排出量）を比較し、標準値からの削減への貢献率を計算します。（温室効果ガス排出量を算定する簡易算定ツールの説明は後述）
- 計算した削減への貢献率を、各等級の閾値と比較し、閾値より高い場合には等級を付与できます。

$$\text{地域慣行と比較した削減貢献率} = \left\{ 1 - \frac{(\text{対象とする農産物の排出量})}{(\text{当該地域・品目の標準排出量})} \right\} \times 100$$

等級確定のイメージ (コメの場合)



※ ← は標準値と比較した削減貢献量
※ 上記は一定の仮定の下での試算であり、実際の算定結果は入力値と標準値により変動する。

2-3. 等級ラベル表示

(3) ラベル表示（等級の確定方法 ～生物多様性保全～）

- 温室効果ガス削減への貢献の算定・等級表示を行ったコメについて、追加的指標として表示する。
- 対象とするほ場での取組実施数を基本に得点化し、得点に応じた等級とする。

見える化の評価

得点	なし	1	2	3以上
等級	-	★	★★	★★★

評価対象の取組

対象取組	得点
化学農薬・化学肥料の不使用	2
化学農薬・化学肥料の5割以上10割未満低減	1
冬期湛水	1
中干し延期または中止	1
江の設置等	1
魚の保護	1
畦畔管理	1

評価例

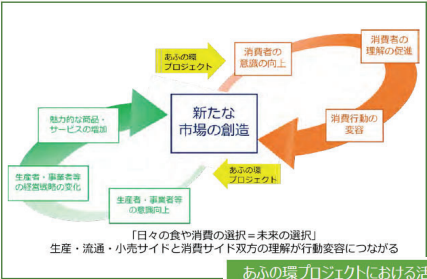
冬期湛水のみ	★ 1点
化学農薬・化学肥料の5割低減	★ 1点
化学農薬・化学肥料の5割低減 + 江の設置	★★ 2点
魚の保護（魚道の設置）+ 畦畔管理	★★ 2点
有機農業（化学農薬・化学肥料の不使用 + 畦畔管理）	★★★ 3点
化学農薬・化学肥料の5割低減 + 畦畔管理 + 冬期湛水	★★★ 3点

2. 環境負荷低減の見える化の基本的な考え方

(参考) 消費者への「見える化」の認知度向上に向けて

- 等級ラベル表示による訴求に加え、消費者に環境配慮の意識啓発を行うことが重要です。農林水産省は、消費者庁・環境省と連携し、生産側と消費側それぞれの取組を促進し、互いに意識・行動を変えていくことで、新たな市場の創出を目指す「あふの環2030プロジェクト」を進めています。
- 環境負荷低減を「見える化」した商品を選択してもらうためには、消費者への直接的なベネフィットを提供する方法なども検討することが求められます。そのためには、ポイント制度や広告など、小売店事業者等の協力を得て進めることが必要と考えられます。
- 農林水産省は、環境省の主導するデコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）と連携するなど、食の分野を中心に消費者の行動変容を促していきます。

あふの環2030プロジェクト ～食と農林水産業のサステナビリティを考える～
持続可能なサプライチェーンの確立に向けて



あふの環プロジェクト

サステナウィーク

あふの環勉強会

サステナフード 伝えたい 日本の“サステナブル”

「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」とは

○ G7広島サミットも見据え、脱炭素につながる**新しい豊かな暮らし**の実現に向けた国民の行動変容、ライフスタイル 転換のうねり・ムーブメントを起こすべく、新しい国民運動を開始し、世界に発信します。

脱炭素の実現に向け、暮らし、ライフスタイルの分野でも大規模なCO2削減が求められます

1 例えば10年後など、脱炭素につながる**将来の豊かな暮らしの全体像、絵姿**をお示しします

2 国、自治体、企業、団体等と共に、**国民・消費者の新しい暮らしを後押し**します

G7やG20等において、
・我が国から**製品・サービス**をパッケージにした**新しいライフスタイルの提案**
・官民連携による**ライフスタイル・イノベーション**の国際協調を提案・発信することも視野

国内での**新たな消費・行動の喚起とグローバルな市場創出・マーケットイン**を促します

出典：環境省「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」（2023年1月）

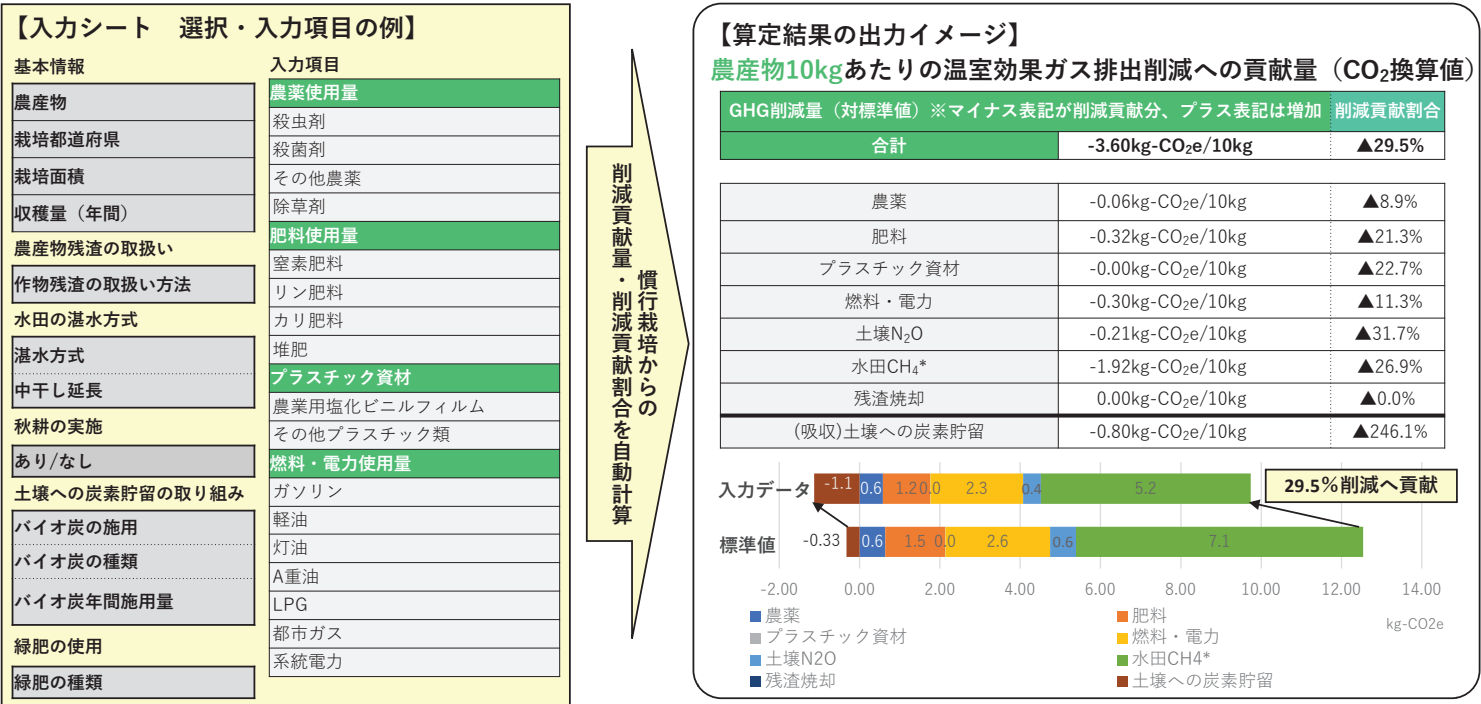
3. 農産物の温室効果ガス簡易算定シートの概要

26

3. 農産物の温室効果ガス簡易算定シートの概要

(1) 簡易算定シートとは

- 農産物の温室効果ガス簡易算定シートは、農業者等が生産にかかるGHG排出量や削減率を簡易に算定するためのエクセルを利用したツールであり、農林水産省が作成したものです。農林水産省に利用者登録することにより、誰でも利用することができます。
- 温室効果ガス排出原単位は、IDEA（アイデア）v2.3データベース等を利用しています。



IDEA：産業技術総合研究所で開発された国内最大級のライフサイクルインベントリデータベース。積み上げ法で作成されており、産業連関法で作成されたデータベースに比べ、物量ベース単位でより多くのデータ項目を有する。
 (注)農林水産省は、IDEAv2.3の特殊ライセンスを取得しています。